

## 地域特性を活かした国際協力活動

宮崎大学国際連携センター

吉成 安恵

第6回山口大学国際シンポジウム 平成24年3月9日

## 本日の内容

- 宮崎と宮崎大学の概要
- 国際活動の2つの事例紹介
- 共通する事項

## 宮崎県の概況

- ・総人口：1,130,997人
- ・産業：農業等一次産業中心、観光推進
- ・外国人（登録者数）：4,197人（2009年）
- ・県内留学生数：172人（2010年）



## 宮崎大学

- ・2003年に旧宮崎大学と旧宮崎医科大学が統合。  
教育文化学部、医学部、工学部及び農学部の4学部と大学院研究科
- ・学生約5,600人、教職員約1,400人
- ・留学生数（受入れ）137人、留学生数（派遣）386人。48カ国（2011年度）
- ・2007年に農学と工学を融合した農学工学総合研究科博士後期課程を開設
- ・2010年に医学と獣医学を融合した医学獣医学総合博士課程を開設
- ・2011年に産業動物防疫リサーチセンターを開設

世界を視野に 地域から始めよう



附属図書館・教育文化学部（木花キャンパス）

## 宮崎大学の国際協力(JICA関連)

### <農業>

- ・アフガニスタン国中核人材育成プロジェクト～PEACE～(留学生受入)
- ・トルコ国カレイ養殖プロジェクト(短期専門家)
- ・ベトナム「持続可能な農村開発のためのタイバック大学機能強化プロジェクト」(短期専門家、CP受入れ)

### <環境>

- ・草の根技術協力事業 インド国砒素汚染対策プロジェクト実施

### <保健医療>

- ・地域別研修「中東地域女性の健康支援を含む母子保健対策」(研修員の受入れ)

### <工学>

- ・円借款事業インドネシア高等人材開発事業(Ⅲ)「リンケージプログラム」(H20～)、「ノンディグリートレーニングプログラム」



### 事例1 砒素汚染対策に関する国際協力

## JICA草の根技術協力事業

『行政主導化をめざしたインド・ウッタール・ブラデシュ州における総合的砒素汚染対策事業』

**JICA草の根技術協力事業**  
**『行政主導化をめざしたインド・ウッタル・プラデシュ州における総合的砒素汚染対策事業』**

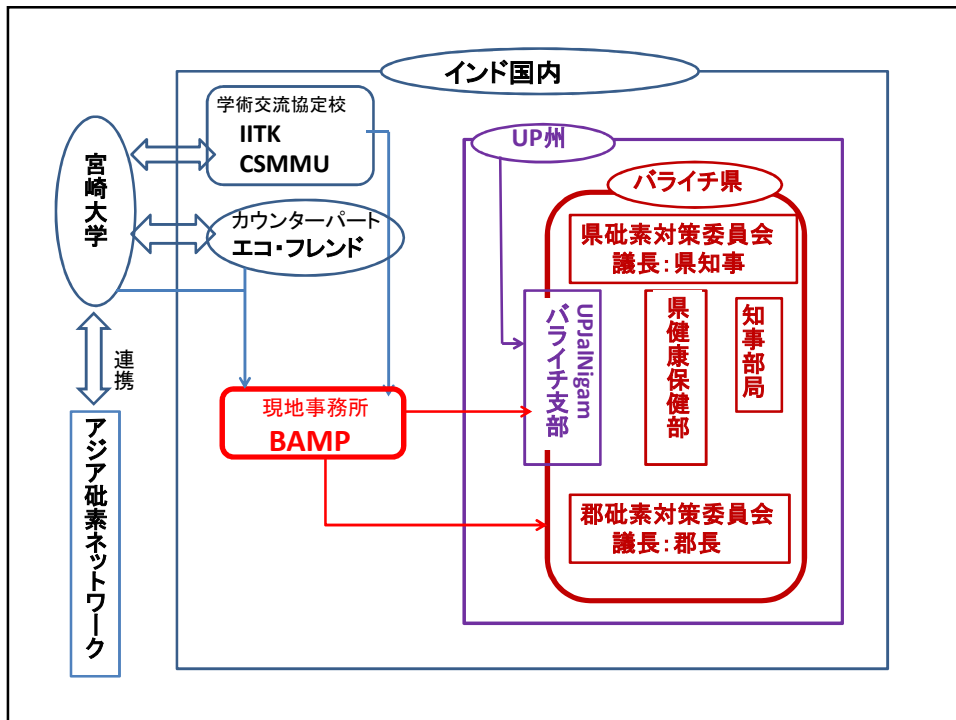
<背景>

- ・宮崎県土呂久慢性砒素中毒被害<第4公害病認定>(1973～)
- ・「土呂久、松尾公害被害者を守る会」(後にNPO「アジア砒素ネットワーク」に改組)を支援
- ・医学部では30数年にわたり住民検診を実施(1974～)
  
- ・バングラデシュ(1997～)、ネパール(2002～)、インド(2006～)での検診・代替水源建設等の活動実施
- ・砒素汚染対策のJICA本邦研修への協力

**JICA草の根技術協力事業**  
**『行政主導化をめざしたインド・ウッタル・プラデシュ州における総合的砒素汚染対策事業』**

<概要>

- ・期間:平成23年3月～平成25年3月(2カ年)
  - ・インド側実施機関:**NGOエコ・フレンド**、UP州水道局、バライチ県医療保健部
  - ・協力内容:
    - ①**目標**:事業対象27集落において、行政による安全な飲料水の供給及び検診・健康管理のシステムが確立されること。
    - ②**成果**:
      - a. 郡単位に砒素汚染対策委員会が設立される。
      - b. 27集落で砒素汚染状況が把握される。
      - c. 27集落で中毒患者の実態が把握される。
      - d. 県医療機関スタッフが慢性砒素中毒症の診断技術を有し、健康管理による症状軽減等の十分な認識を持つ。
      - e. 代替水源についての技術移転が水道局や建設技術者に対し行われる。
      - f. 政府機関と協働して砒素を含まない安全な飲料水が確保されること。
      - g. 地下水砒素汚染の一要因とされる牛糞が衛生的に処理できるようになる。
    - ③**官大の実施体制**:
      - ・事業統括者(副学長/国際連携センター長)
      - ・国内における指揮命令/連絡(国際連携室 国際協力担当係長)
      - ・プロジェクトマネジャー(特任教授)、
      - ・サブプロジェクトマネジャー(主に現地滞在)
- \* 学内:IRISH(全学横断研究組織) \* 学外:NPOアジア砒素ネットワーク





事例2 口蹄疫等動物感染症対策に関する国際活動

## 産業動物感染症対策に関する研究 と人材育成



## 産業動物感染症対策に関する研究と人材育成

### <背景>

- ・H19年、H23年高原性鳥インフルエンザ被害、H22年口蹄疫被害
- ・県と連携した対策のオペレーション実施

H22年宮崎大学口蹄疫対策委員会設置(延べ275人動員)、  
H23年宮崎大学鳥インフルエンザ対策委員会設置(延べ124人動員)

- ・高度な技術と指導性を有する必要性

⇒産業動物防疫リサーチセンター設立(2011年10月1日)

### <実施内容>

- ・センターを通じた研究・教育活動(関係シンポジウムの実施等)
- ・国際的な人材育成の為の準備(JICA研修企画提案)

## 産業動物感染症対策に関する研究と人材育成

**国際シンポジウム**  
**国境なき家畜伝染病防疫対策の取り組み**  
— 世界の安全・安心のために —  
**ONE WORLD, ONE MEDICINE**  
Global Countermeasures against Trans-boundary Animal Diseases

2010年に発端から発生した口蹄疫は過去に類を見ない世界的な大流行を呈し、  
甚大な経済的損失も招きました。  
日本有数の畜産供給地である宮崎県に在る宮崎大学は、  
蹄疫、口蹄疫、鳥インフルエンザウイルスなどの  
海外原料に由来する感染症の発生に備え、対策を講じ、  
2011年10月に防疫リサーチセンターの発足や  
本学の研究体制の確立を目的として  
畜産動物防疫リサーチセンターを設立しました。  
この機会に、国際的な防疫対策で取り組んでいる国内外の専門家を招き、  
防疫対策の現状と課題を共有し、  
世界的な視野からの防疫体制の在り方を検討することを目的として、  
本シンポジウムを実施することとなりました。

日時 2012年1月20日(金) 9:30~17:00 (受付9:30~)  
会場 シーガイア コンベンションセンター 4F 鳳玉  
(7-2-1 アール・シーガイアビル)

- 1 宮崎県における家畜防疫対策の現状と今後
- 2 国際防疫と口蹄疫
- 3 国境なき防疫対策
- 4 口蹄疫ワクチンとその戦略について (JICA研修企画)

入場無料・同時通訳あり  
※当日は午後13:30までです

1月19日(木) 13:30~ 宮崎大学農学部10号 研修室(宮崎県立総合研究機構内)  
主催 宮崎大学農学部(農畜防疫推進センター)・JICA 協賛 畜産動物防疫リサーチセンター  
後援 農林水産省(畜産防疫推進センター)・JICA 協賛 畜産動物防疫リサーチセンター  
お問い合わせ先 畜産動物防疫リサーチセンター 電話 0985-58-2984 0985-58-2984 cad@ecc.miyazaki-u.ac.jp

宮崎毎日新聞 2012年(平成)24年1月21日 土曜日  
宮崎日日新聞

家畜伝染病  
**口蹄疫診断技術を報告**  
国際シンポジウムで防疫の情報共有  
宮崎県大で防疫の情報共有  
宮崎県大で防疫の情報共有

国際シンポジウム『国境なき家畜伝染病防疫対策の取り組み  
—世界の安全・安心のために—』

宮崎県 河野知事 挨拶



宮崎県経済農業協同組合 羽田会長講演



口蹄疫の被害地域(西都市) 殺処分した家畜の埋却場所



農家の畜舎



畜魂慰霊碑



フィールドトリップ集合写真  
(都野ワイナリー前)



## 2つの事例の共通点

- 地域特性  
⇒公害の克服の歴史と対策経験、  
日本有数の畜産基地における大規模な感染  
被害の経験と対策実践
- 多様な関係機関との連携  
⇒学内における横断的連携、  
学外における連携(国際機関、自治体、NGO、  
民間産業団体等)